

2005.11.25

## 平成17年度中間決算の概要



株式会社 大光銀行

# 目 次

---

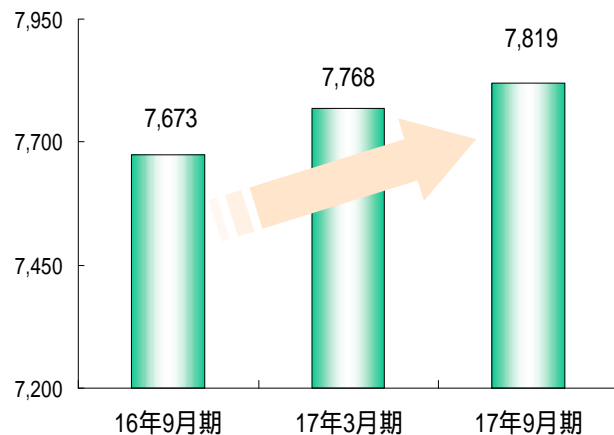
- 1 . 貸 出 金
- 2 . 預 金 ・ 預 り 資 産
- 3 . 収 益
  - ( 1 ) 業 務 純 益
  - ( 2 ) 経 費
  - ( 3 ) 経 常 利 益
  - ( 4 ) 中 間 純 利 益
- 4 . 自 己 資 本 比 率
- 5 . 不 良 債 権
- 6 . 繰 延 税 金 資 産 ( 単 体 )
- 7 . 業 績 予 想

## 1.貸出金

貸出金残高は前年同期比 146億円 (1.90%) 増加し、7,819億円。

一般 (法人、事業者、地公体) 向貸出は前年同期比 104億円 (1.97%) 増加、消費者ローンは同 42億円 (1.75%) 増加、内訳では住宅ローンが 80億円 (3.99%) の増加。

貸出金残高推移 (単位: 億円)



(単位: 億円)

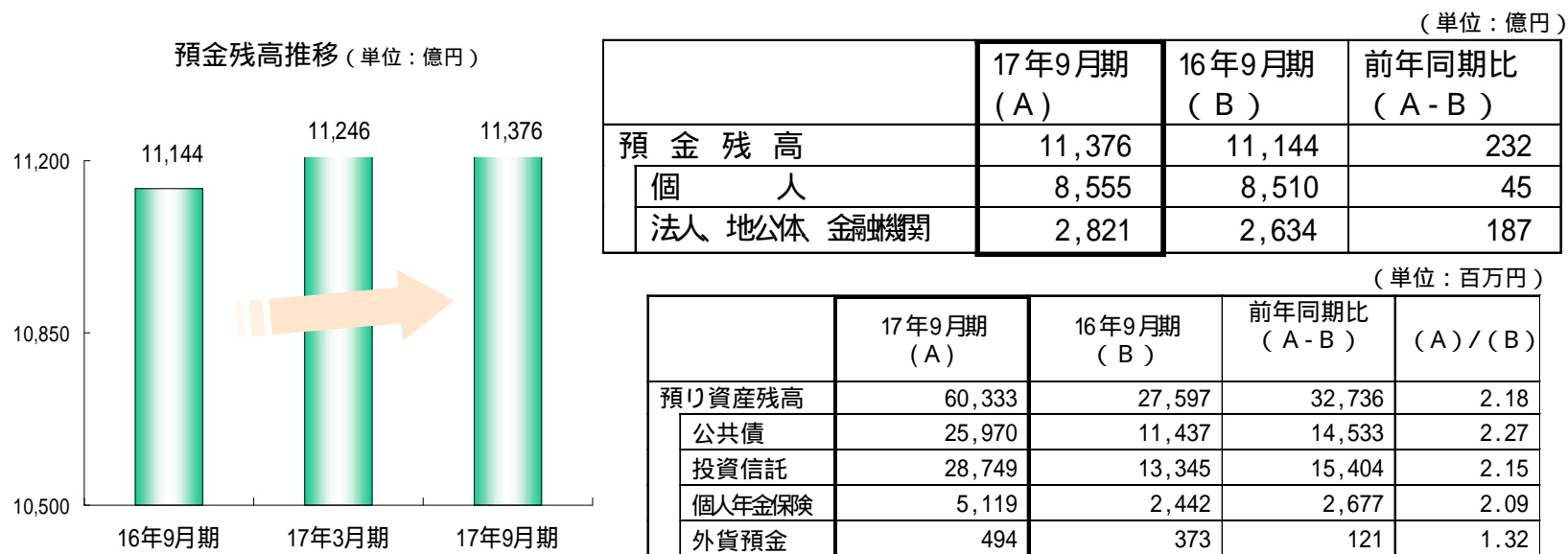
	17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
貸出金残高	7,819	7,673	146
一般 (法人、事業者、地公体) 向け	5,375	5,271	104
消費者ローン	2,444	2,402	42
住宅ローン	2,085	2,005	80
その他ローン	359	396	37

## 2.預金・預り資産

預金残高は前年同期比 232億円 (2.08%) 増加し、1兆1,376億円。

個人預金残高は前年同期比 45億円 (0.52%) 増加し、8,555億円。

預り資産は投資信託、公共債を中心とする顕著な伸びにより前年同期比 327億円 (118%) 増加し、603億円。



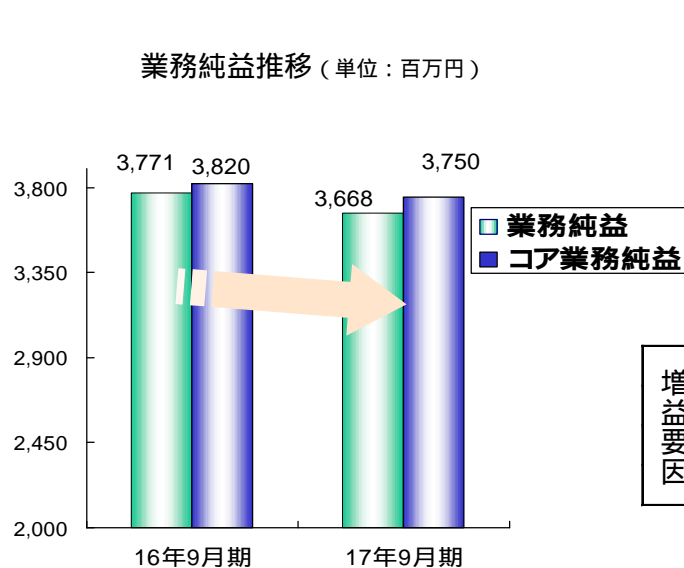
### 3. 収益

#### (1) 業務純益

業務純益は前年同期比 103百万円減少し、3,668百万円。

経費の削減および役務取引等収益の増加等による増益に努めたものの、貸出金利回りの低下による資金利益の減少および一般貸倒引当金の繰入増加による減益がこれを上回った。

コア業務純益は前年同期比 70百万円減少し、3,750百万円。



(単位：百万円)

	17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	3,668	3,771	103
コア業務純益	3,750	3,820	70

#### 主な増減益要因 (業務純益)

(単位：百万円)

増減益要因	前年同期比		減益要因	前年同期比	
役務取引等利益	139		一般貸倒引当金繰入	424	
経費	86		資金利益	293	
国債等債券損益	392				

## (2)経費

物件費が前年同期比 42百万円減少したのに加え、人件費も人員計画に基づく人員減少により同 34百万円減少。経費全体では前年同期比 86百万円圧縮。

今後もローコスト経営を目指し、経費の効率化・合理化を図る。

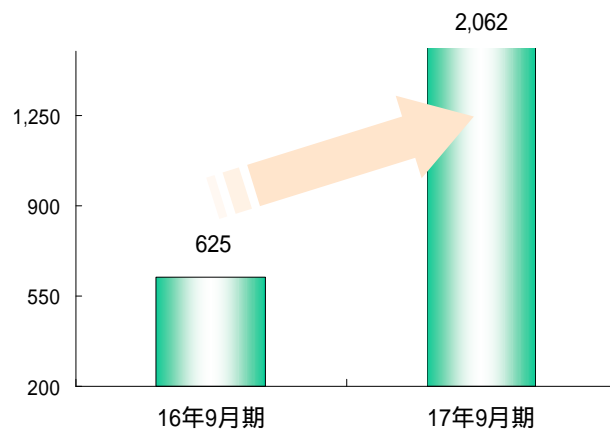
(単位：百万円)

	17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
経費	6,875	6,961	86
うち人件費	4,109	4,143	34
物件費	2,338	2,380	42

### (3) 経常利益

業務純益は減少したものの不良債権処理額の減少等により、経常利益は前年同期比1,437百万円増加し、2,062百万円。

経常利益推移 (単位：百万円)



#### 経常利益

(単位：百万円)

17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
2,062	625	1,437

#### 主な増減益要因

(単位：百万円)

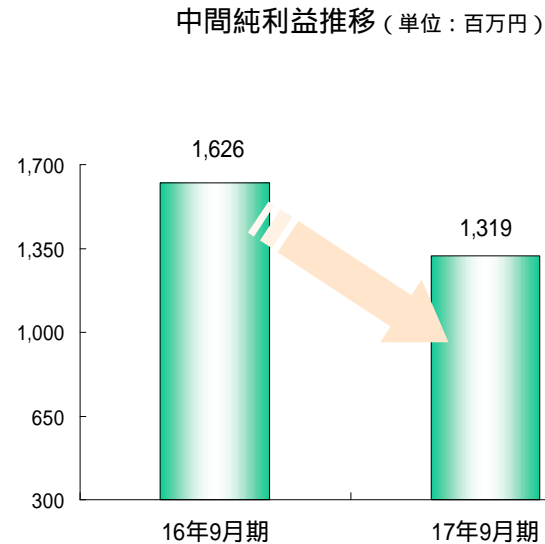
	17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	3,668	3,771	103
不良債権処理額	1,230	2,653	1,423

## (4)中間純利益

特別損益 が前年同期比 2,090百万円減少。

(16年 9月期は厚生年金基金代行返上に伴う特別利益 2,140百万円計上)

中間純利益は前年同期比 307百万円減少し、1,319百万円となったが、当初予想 1,050百万円に対して269百万円上回った。



(単位：百万円)

項目	17年9期 (A)	16年9期 (B)	前年同期比 (A - B)
(資金利益)	( 10,404 )	( 10,697 )	( 293 )
(その他業務利益)	( 192 )	( 199 )	( 391 )
業務純益	3,668	3,771	103
経常利益	2,062	625	1,437
(経常収益)	( 12,201 )	( 12,255 )	( 54 )
(経常費用)	( 10,139 )	( 11,630 )	( 1,491 )
特別損益	64	2,154	2,090
税引前中間純利益	2,126	2,779	653
法人税、住民税及び事業税	11	23	12
過年度未払法人税等取崩額	-	284	284
法人税等調整額	795	1,415	620
中間純利益	1,319	1,626	307



## 4.自己資本比率

自己資本比率は9.69% (連結)、9.70%(単体)となり、高い水準を維持。

Tier 比率は、連結8.69%、単体8.71%で十分な水準を維持。

自己資本には劣後債、劣後ローン等の負債性資本の調達はなし。

(単位：百万円)

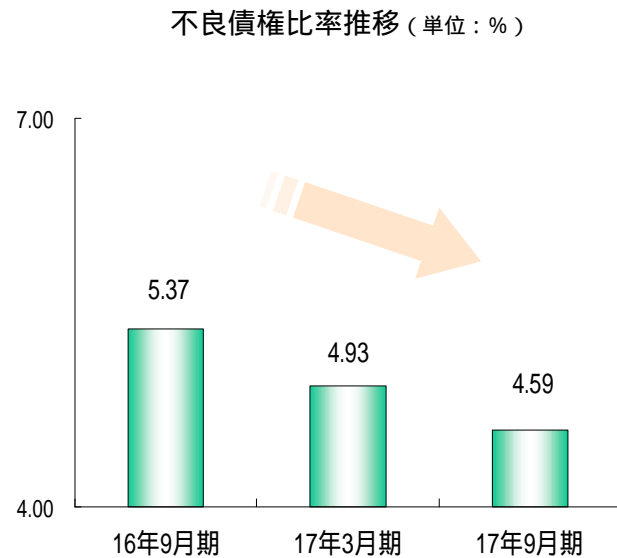
	17年9月期(速報値)	17年3月期比	17年3月期	16年9月期
	連結自己資本比率	9.69%	0.01%	9.70%
連結Tier 比率	8.69%	0.01%	8.70%	8.72%
連結自己資本	57,073	1,122	55,951	55,393
連結リスクアセット	588,915	12,158	576,757	569,436
単体自己資本比率	9.70%	0.02%	9.68%	9.71%
単体Tier 比率	8.71%	0.00%	8.71%	8.71%
単体自己資本	57,102	1,326	55,776	55,257
単体リスクアセット	588,133	12,164	575,969	568,544

## 5.不良債権

企業再生支援および償却・債権売却等によるオフバランス化に積極的に取り組んだ結果、不良債権額は前年同期比53億円減少し、361億円。

不良債権比率は前年同期比0.78%、17年3月期比0.34%改善して4.59%。

18年3月期に4%台前半の目標。(中期経営計画目標指標5%以下)



(単位: 百万円)

		17年9月期	16年9月期比	16年9月期	17年3月期 (参考)
金融再生法 開示債権	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	9,251	4,574	13,825	11,729
	破綻先債権	2,248	2,281	4,529	3,465
	実質破綻先債権	7,003	2,293	9,296	8,264
	危険債権	23,358	2,598	20,760	23,392
	要管理債権	3,585	3,375	6,960	3,455
	小計(A)	36,195	5,351	41,546	38,578
	正常債権	752,412	20,262	732,150	744,157
債権額合計(B)		788,608	14,912	773,696	782,736
不良債権比率(A/B)		4.59%	0.78%	5.37%	4.93%
不良債権処理額		1,230	1,423	2,653	5,845

## 6.繰延税金資産(単体)

繰延税金資産は、不良債権の最終処理促進に伴い引当金(有税貸倒引当金)を一部取崩したこと等により、前年同期比4,055百万円減少し、3,874百万円。

繰延税金資産の自己資本(Tier )に占める割合は、前年同期比8.4%低下し、7.6%。

(単位：百万円)

	17年9月期 (A)	16年9月期 (B)	前年同期比 (A - B)
繰延税金資産 (A)	3,874	7,929	4,055
自己資本(Tier )(B)	51,235	49,537	1,698
$(A) / (B) \times 100$	7.6%	16.0%	8.4%

## 7.業績予想

平成17年度通期の業務純益は、単体53億円の予想。

平成17年度通期の当期純利益は、単体14億円の予想。

(単位：百万円)

	通 期 ( 18 年 3 月 期 )	
	連 結	う ち 単 体
経 常 収 益	24,000	23,500
( 業 務 純 益 )		(5,300)
経 常 利 益	2,300	2,300
当 期 純 利 益	1,300	1,400
自 己 資 本 比 率	9.69%	9.70%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであり、経営環境の変化等により計画または予想の数値と異なる可能性があります。